

海老名市立中新田小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第1回)

- 1 日時 令和7年5月21日(水) 10:00～11:00
- 2 場所 海老名市立中新田小学校 生活科室
- 3 出席委員 笠原祐治委員長、打野公一副委員長、鍵渡香代子
渡邊富二夫委員、七海勝浩委員
林麻佐美委員、安藤信貴委員、大山圭三委員、西澤弘毅委員
久保田祐子委員、宮台理恵委員、片岡桂太委員

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

打野校長：1ヶ月半が経ち少しずつ学校に慣れてきた。この学校運営協議会という繋がりを大切にして学校運営を進めていきたい。

(2) 委嘱状交付

4月より新規委員の打野委員、片岡委員へ委嘱状交付。
また、西澤委員は欠席のため後日、委嘱状交付。

(3) 会長、副会長の選出

会長に、笠原委員を選出。
副会長に、打野委員を選出。

(4) ①令和7年度の学校経営方針について

～令和7年度海老名市中新田小グランドデザインについて～

打野校長：校歌を歌えるようになっていきたい。自然豊かな場所であり子どもにとって良い環境である。その一方でこの地域の開発が進んでいることも事実である。5年後にはその影響もあり人口が増える可能性がある。クラスは平均して3クラスである。沿革という点では昨年外壁塗装を行った。また、先日は交通安全教室を実施した。学校教育目標は中学校区で統一をしている。その中で「グループ・チームの取り組み」が本校の特色であると言える。

学びづくりグループはそこから3つに分かれている。

「校内研究チーム」では主として校内研究を進めている。算数科を中心に行っており、次回の研究授業に向けてタブレットを用いて学習を進めて

いる。「スクールタクト」というアプリソフトを用いて進めている。来年度、本校は研究発表を行うことになっている。「授業改善・学力向上チーム」は交換授業や幼・保・小の連携を進めている。また「中小タイム」というモジュール（15分×3）の学習も進めている。「ICT活用推進チーム」は日々進化していく教育環境や内容に対して常にアップデートを心がけ努めている。

心づくりグループも3つに分かれている。

「児童指導・支援チーム」としては、支援に関わるコーディネーターを3人設置している。多くの目で細かいところを見ていくことができるようにするためである。昨今の学校課題に挙げられる「いじめ」がゼロということはないが、すぐにそれをキャッチできるようにアンテナを高くして子どもを見ていきたい。また、支援の面では様々な面で児童を受け入れる別室「とまり木ルーム」を設置している。支援教育という点では、インクルーシブ教育校内支援体制整備事業という県の事業の指定校にもなっており、進めている最中である。「児童交流チーム」に関しては委員会活動等で児童が主体的に進めていくことができる時間を設けている。「地域連携チーム」については、この学校運営協議会を中心に様々な団体と連携を図っている。5年生の稲作や4年生が関わる「かかし祭り」も地域との繋がりで実施することができている。

体づくりグループもまた3つに分かれている。

「体力向上チーム」については、本日の朝会で全校児童を集めて来週行う体力テストに向けてのポイントを教師が説明をしていた。「危機管理チーム」は、児童の安全を守るため、また安全に対する意識を高めるために実践的な避難訓練を行っている。外部講師を招いた交通安全教室を実施している。

宮台教頭：カリキュラムマネジメントについて計画図（年間計画）を用いて説明させていただきたい。年間計画に示されている通り、地域の多大なる協力のもとで行事が成立している。今年度もご協力をいただきたい。具体的には海老名高校さんの「ひるえび」、自治会の「もちっこ」「むかしあそび」幼稚園との「まちたんけん」、農業高校の「交流会」等が挙げられる。

～いじめ防止基本方針について～

打野校長：別紙（いじめ防止基本方針）の通り、今年度も継続して取り組んでいく。

いじめは本人だけでなく、周りも傷ついてしまうものである。関係機関と連携しながらケアしていけるようにしたい。

～学校行事・地域連携について～

打野校長：野外活動・修学旅行は市内で一番早く実施される。支援級の合同宿泊は11月に実施され、地域を含めた大きな行事「もちっ子ひろ場」は12月に実施される。また、開校記念日（2月3日）が今年度から休日となる。

～学校行事・地域連携について～

打野校長：「中小タイム」というものをモジュールでとっている（1週間で15分×3）。学校行事に関しては、学校便りの「なかっ子便り」お知らせをしている。インクルーシブ教育の推進については交流や協働学習を多く取り入れるように努めている。また、児童指導に関しては「中小っこ子基本ガイド2025」を基本として指導にあたっている。

②令和7年度 学校運営協議会実施計画について

宮台教頭：実態内容を簡潔にまとめてさせていただく。全国学力・学習状況調査の結果から自校肯定感が多くはない児童や、登校への不安がある児童が一定数いる。地域の特色としては田畑が残っているが交通量が多い。登校班は無いが地域のサポートは強い。外国籍の家庭が多く外国籍児童は20名程度在籍している。学区内に居住しているが、インターナショナルスクール等に通う児童も一定数いる。これらを踏まえて今年度「地域連携を活かした子どもの自己肯定感を育成するための学校運営について」という協議事項（案）としたい。

～質問・意見なし。以上の事項の承認～
その後、校内授業参観

（5）意見交換

笠原委員長：校内の様子を見ていただいてどうだったか。

鍵渡委員：5年生の少人数が分かりやすかった。先生の声かけが上手で、それが自己肯定感の向上に繋がっていると言える。良いところを見つけて褒めてもらえる授業は大事である。

渡邊委員：昔は人数が多かったが、今は1人1人が手厚く見てもらえて羨ましくもあった。今の時代が羨ましくも思った。

林委員：子どもの素直な様子は見ていて元気をもらえる。目がキラキラしており、話し合いの時の表情が良い。先生が児童を受け止めている様子が良く伝わる。インクルーシブの点から、居住地交流等で交流ができたと思う。

安藤委員：子どもたちが元気に活動していたのが印象的であった。ICTを活用している様子が見られた。これが中高に連動していければよいと思う。外国籍の児童の関わりも参考になった。

大山委員：家庭科の板書が丁寧で、児童の視点で見ると「幸せ」と感じる。また、少人数の指導も分かりやすくて良かった。

久保田委員：楽しそうであったのが第一印象。そのための工夫がされている。自身もこのような教育を受けたかった。一方で、現在の児童は ICT 機器の扱い等、覚えることやするべきタスクも増えているとも感じた。

笠原委員長：6年生に憧れる、6年生を目標にできる学校を目指して行ってほしい。

(6) その他

次回の、学校運営協議会は、令和7年9月29日（月）10:00から開催予定。

第3回は2月27日（金）の予定。